



月刊えるでは市民活動（NPOやボランティア、地域活動など）で活躍中の方々を少しずつご紹介していきたいと思っています。

これらの活動で出会える・ふれあえる・学びあえる、そしてつながるを応援します。

今月のイチオン 「大牟田フルス協会」さん



団体さんについて

15年前、中国で初めて聴いた不思議な笛の音が素晴らしく、衝撃的でした。この笛を日本で普及させるために、11年前に始めた白川フルス愛好会は今では会員数25人で3つのサークルと、1つの練習会がある「大牟田フルス協会」となりました。

大牟田市での活動について

コロナ以前は年間50回ぐらいの施設慰問、小学校コンサートなどをしていましたが、今年は全くできません。しかし、練習は許される範囲で静かに行っています。

えるでの活動

不定期ですが、音楽室での練習、会内発表会、検定試験、講習会、多目的ホールでのコンサートなど多彩に利用しています。

これからの予定

コロナによる活動が制限される中、全国の皆さんの自粛生活をお見舞い・応援するために Youtubeでネットコンサートを発信したところ大きな反響がありました。大牟田フルス協会はすでに100曲程度のレパートリーがあります。これからはそれらを活用して、える多目的ホールにて無観客で収録し、短時間のネットコンサートとして全国に継続的に発信し、「ピンチをチャンスに!!!」変えたいです。

今後の目標や展望

大牟田発、フルスの全国普及を目指しています。



小学校での
コンサートの様子



ネットコンサート

フルスについて

ひょうたんのお尻に3本の竹を突っ込んだような実に奇妙な形をした笛です。元々は中国南部の少数民族の楽器でしたが今では中国を代表する民族楽器となっており、その音は不思議なほどまろやかでやさしいです。こんなフルスを2つのキャッチフレーズで表しています。

「さわやか まろやか いやし系!!!」

「吹く人と聴く人の心を優しくする不思議な笛 フルス!!!」

小学校3年生からリコーダーを教えている日本はフルスの普及に最も適した音楽先進国です。現在70歳以下の日本人なら、だれでもすでも吹くことができます。



PRをお願いします

中国ではフルスは中国民歌(民謡のようなもの)が演奏されます。しかし、私たち日本人は中国民歌はもちろん日本の曲、世界の曲、ポピュラーな曲等何でも吹きたいです。フルスの唯一の欠点が、音域が狭く、吹ける曲がとても少ないことです。そこで音域の違うフルスを4つのパートに分けて4部合奏にして演奏することにしました。出ない音を他のパートで補い合い、今まで吹けなかった曲も吹けるようになり、さらに合奏として響き合い、ハーモニー豊かで豪華な演奏ができるようになりました。

これは世界中どこもやっていない方法だと思われると思います。大牟田フルス協会は世界唯一のフルス合奏団です。そして、それはいわば大牟田の「世界文化資産」と言えると思っています。

世界中どこでもできないフルスをこの大牟田で体験しませんか。

問合せ：大牟田フルス協会 代表:井上 昌男
：TEL/FAX 0944-55-8415
メール：tadaoji60inoue@yahoo.co.jp